

定時制高校生徒の学校生活適応感に関する研究

— 中学登校状況に着目して —

金子 恵美子

(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科)

【問題と目的】 定時制高校は、不登校生徒、高校中退者をはじめとした多様なニーズを持つ生徒を受け入れ対応しており、フルタイムの学校になじめない生徒を弾力的に受け入れることが可能な高校との指摘もある(片岡,1993)。本研究では、中学での登校状況に着目し、中学に登校していた生徒、不登校であった生徒がそれぞれ定時制高校のもとでどのような変化を遂げているのかについて検討する。

【方法】調査対象: 大阪府内3校の定時制高校生徒345名。**調査時期:** 2000年10~11月。**調査内容:** ①学校生活適応感;内藤・浅川・高瀬・古川・小泉(1986)より学習意欲、友人関係、進路意識、教師関係、特別活動への態度についての30項目。5件法。②中学時の学校生活適応感;内藤ら(1986)より学習意欲、友人関係、進路意識、教師関係、特別活動への態度の5因子から各2項目、計10項目。5件法。③中学登校状況;「ほとんど休まなかった」「月に1~2日くらい休んだ」「週に1~2日くらい休んだ」「週に3日以上休んだ」「ほとんど休んだ」の5段階評定。④フェイスシート。

【結果と考察】 因子分析(主因子法、バリマックス回転)の結果、学校生活適応感、中学時の学校生活適応感ともに5因子(「特別活動への態度」「友人関係」「教師関係」「進路意識」「学習意欲」)が得られた。

(1) 中学登校群・中学不登校群の分類 中学校での登校状況について、欠席が週に1~2日以上の場合、欠席日数が年間30日以上という不登校の欠席基準を満たすことから、「ほとんど休まない」「月1~2日欠席」と回答した生徒を中学登校群、「週1~2日欠席」「週3日以上欠席」「ほとんど休んだ」と回答した生徒を中学不登校群とした。その結果、中学登校群208名(60.6%)、中学不登校群135名(39.4%)であり、定時制高校に通う生徒のうち約4割の生徒が中学時に不登校(傾向)であったと考えられる。

(2) 中学登校群・中学不登校群における学校生活適応感(中学時・現在)の比較 中学時の学校生活適応感、現在の学校生活適応感について、中学登校群、中学不登校群それぞれの平均得点を算出し、2群間の差を検討した。その結果、中学時では「特別活動」「友人関係」「教師関係」「進路意識」で中学登校群のほうが高く($t=6.87, p<.01$; $t=3.77, p<.01$; $t=2.88, p<.01$; $t=2.53, p<.05$)、現在ではいずれも差が見られなかった。中学時は不登校群が登校していなかったこと、現

在は登校している生徒が対象であることの限界はあるが、中学で不登校であった生徒でも定時制高校では登校を続け、適応的に過ごしうることが考えられる。

(3) 中学登校群・中学不登校群における学校生活適応感の変化(中学時~現在) 上の結果をふまえ、生徒の変化をさらに詳細に検討するために中学時から現在への学校生活適応感の変化について比較検討した。中学時、現在の学校生活適応感について対応のあるt検定を行った結果(表1、2)、中学登校群、不登校群ともに「進路意識」「学習意欲」の上昇が見られ、定時制高校に通うことで将来に対する展望が持てるようになっていくことが示唆された。また、定時制高校で初めて授業が理解できる喜びを感じる生徒も少なくないとの指摘もあり(片岡,1993)、基礎を充実した授業などの取り組みを反映していると考えられる。一方、「友人関係」については中学登校群で得点が低下し、中学不登校群では変化が見られなかった。定時制高校における生徒の多様さゆえに親しい友人を見つけることの難しさ、不登校生徒の特徴としてしばしば指摘される対人関係の困難さから友人関係について満足感を感じにくいことが考えられ、サポートの必要性が考えられた。また、「特別活動」「友人関係」については、中学登校状況による相違が見られており、それぞれに合わせた対応を考えていく必要があることが示唆された。中学で不登校であった生徒では、現在では多くの適応感が上昇しており、定時制高校が充実した場となっていることが示唆された。

表1 中学登校群における学校生活適応感の変化

学校生活適応感	中学時		現在	t値
特別活動	3.11(1.40)	>	2.62(1.15)	4.64**
友人関係	3.90(1.19)	>	3.23(1.02)	7.06**
教師関係	2.92(1.28)		2.83(1.09)	1.01
進路意識	2.87(1.28)	<	3.07(1.12)	2.28*
学習意欲	2.88(1.09)	<	2.39(.89)	3.95**

** : $p<.01$ * : $p<.05$

表2 中学不登校群における学校生活適応感の変化

学校生活適応感	中学時		現在	t値
特別活動	2.09(1.24)	<	2.56(1.12)	3.71**
友人関係	3.38(1.27)		3.21(.91)	1.53
教師関係	2.50(1.33)	<	2.93(1.02)	3.14**
進路意識	2.50(1.28)	<	3.05(1.05)	4.60**
学習意欲	1.81(1.09)	<	2.32(.87)	4.36**

** : $p<.01$